

(仮称)登別市情報発信拠点施設を中心とした登別東地区の整備

登別市・新規

■ 現状

登別東地区は、年間約400万人もの観光客が訪れる登別観光の玄関口に立地することから、かねてより全国的に有名な登別温泉等との交通の要衝として重要な役割を担っています。

しかしながら、モータリゼーションの進展による歩行者の減少に加え、人口減少や少子高齢化による後継者不足に起因する空き店舗等の未利用地が点在するなど、市街地としての活力が失われつつあるほか、地区内の公共施設は、老朽化が著しく、耐震性の不足、バリアフリー未対応といった状況にあります。

本市では、現在、JR登別駅へのエレベーターの設置やJR登別駅前の整備に向け、関係機関と協議・関係事務を進めており、周辺では、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO登別病院）の開院や民族共生象徴空間（ウポポイ）の開設もあって、その相乗効果により本地区を含む広域的な地域活性化が期待できるところ、行政サービス機能やコミュニティ機能を集約しつつ、観光等の情報発信機能を充実させるとともに、観光客と地域住民双方の利便性・満足度の向上を図るため、（仮称）登別市情報発信拠点施設を整備することとし、これを中心としながら、周辺道路等の整備を総合的に進めることとしています。

■ 課題

JR登別駅前周辺では、民間事業者や地域の連携により、イベントの開催などに取り組んでいるものの、空き店舗等が見られるなど、地域の賑わいといった点で課題があるほか、地区のコミュニティを支える公民館等の公共施設に関しては老朽化が著しく、さらに耐震性にも劣る状況となっています。

現状、コロナ禍にあって、観光客の入り込みに大きな影響を受けていますが、近年、インバウンドの増加により、JR登別駅利用者が増加傾向にある中、駅前広場等の狭隘により歩行者と車両が輻輳するなど交通面で懸念されるほか、FIT（海外個人旅行）等への対応として、JR登別駅構内において観光案内を行っているものの、その機能は観光客数に対し十分とは言えない状況にあるなど、受入環境の面でも課題がある状況となっています。

■ 要望内容

- 社会資本総合整備計画に係る補助制度の充実及び財源措置

■ 事業効果

- （仮称）登別市情報発信拠点施設を中核とした賑わいのあるまちづくり
- JR登別駅周辺の一体的整備と地域創造によるまちの活性化
- 受入環境の充実によるリピーターの獲得

